

令和 2 年 2 月 25 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立喜連中学校	校印
校 園 長 名 :	竹内 昭典	
電 話 :	06-6704-0003	F A X : 06-6797-8152
事務職員名 :	坂口 起	
申請者 校 園 名 :	大阪市立喜連中学校	
職 名 ・ 名 前 :	教頭 丹羽健太郎	
電 話 :	06-6704-0003	F A X : 06-6797-8152

研究コース	
グループ研究B	
選定番号	247
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
752726	

## 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究
2	研究テーマ	生徒一人ひとりの言語活動の充実を図る研究 －「対話」を深めるさまざまな思考活用ツールの援用を通して－			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科等の特質に応じた言語活動の充実</li> <li>○知的活動（論理や思考）の醸成</li> <li>○身体活動を通じた言語活動の充実</li> <li>○感性に沿ったコミュニケーション能力の構築</li> <li>○新しい学習観の育成（society5.0 に向けて）</li> <li>○自己理解と他者理解を通じた言語活動の充実</li> </ul>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業改善及び課題解決のための先進校・学術的学会への派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 6月22日（日本カリキュラム学会）</li> <li>* 7月31日（立教大学経営学部）</li> <li>* 9月17日（東京都千代田区立麹町中学校）</li> <li>* 11月19日（東京都千代田区立麹町中学校）</li> <li>* 11月29日（大阪教育大学教育学部）</li> </ul> </li> <li>2) 課題解決のための他業種との交流会及び研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 8月2日（明石スクールユニフォームカンパニー）</li> <li>* 11月26日（豊岡先生・大阪市教育センター）</li> <li>* 12月20日（日本生命保険相互会社）</li> <li>* 12月24日（吉本興業ホールディングス）</li> </ul> </li> <li>3) 研究授業への大学教授の招聘 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 6月19日（英語科 大阪教育大学 加賀田哲也教授）</li> <li>* 7月3日（英語科 大阪教育大学 加賀田哲也教授）</li> <li>* 9月2日（英語科 奈良教育大学 赤沢早人教授）</li> <li>* 9月30日（理科 奈良教育大学 赤沢早人教授）</li> <li>* 1月21日（英語科 大阪教育大学 加賀田哲也教授）</li> </ul> </li> <li>4) 授業改善及び課題解決のための専門家の招聘 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 11月～1月（松本憲亮会長・喜連中学校）</li> <li>* 10月～1月（松本憲亮会長・新巽中学校、矢田西中学校、今津中学校）</li> </ul> </li> <li>5) 研究授業の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 11月7日（保健体育科）・12月3日（英語科）</li> </ul> </li> <li>6) 不登校生徒支援（9月24日、11月25日、12月13日）</li> </ol>			

5	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</b>および<b>教員の資質や指導力の向上</b>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>			
		<p>【生徒授業アンケート調査結果から検証】          ブロックを思考活用ツールとして、「自己理解・他者理解・合意形成」をテーマとして学習会を実施した。71.7%以上の教員が、自分の考えや意見を相手に伝えることが難しいと回答しているが、65.1%以上の教員が、ブロックを援用することによって課題を解決できると肯定的に回答している。この結果から、ブロックが課題解決を促すツールになりうることで成果として考えられる。</p>			
		<p>【生徒授業アンケート調査結果から検証】          ボックスフィットを思考活用ツールとして、「自己理解・他者理解」をテーマに保健体育科の授業を実施した。ボックスフィットの授業に肯定的な回答をした生徒は90.3%となり、これからもボックスフィットの授業を受けてみたいと肯定的に回答した生徒は70.5%であった。この結果から、ボックスフィットが、生徒の興味関心を促進させていることがわかった。</p>			
		<p>【生徒授業アンケート調査結果から検証】          ボックスフィットを思考活用ツールとして、「自己理解・他者理解」をテーマに保健体育科の授業を実施した。ボックスフィットを通じて63.1%の生徒が相手へのアドバイスが難しいと回答していたが、48.9%の生徒が、2回目の方がうまく相手にアドバイスを伝えることができたことと回答している。この結果から、身体的活動が、言語活動の充実を促していることがわかった。</p>			
		<p>【教職員アンケート調査結果から検証】          ブロックを思考活用ツールとして、「自己理解・他者理解・合意形成」をテーマとして研修会を実施した。90%以上の教員が、自分の考えや意見を相手に伝えることが難しいと回答しているが、80%以上の教員が、ブロックを援用することによって課題を解決できると肯定的に回答している。この結果から、ブロックが課題解決を促すツールになりうることで成果として考えられる。</p>			
		<p>【教職員アンケート調査結果から検証】          ブロックを思考活用ツールとして、「自己理解・他者理解・合意形成」をテーマとして研修会を実施した。44%以上の教員が、ブロックを援用することによって自分の考えや意見を相手に伝えることに積極的に好感を持っていると回答している。この結果から、ブロックを思考活用ツールとして援用すると、言語活動の充実を促していることがわかった。</p>			
<p>【区役所の不登校対応施策との協働】          平野区役所が展開する「子どもの広場」との協働によって、不登校の生徒や児童にブロックやボックスフィットを思考活用ツールとした教育実践をおこなうことができた。          述べ27名の不登校児童・生徒に本研究を展開することによって、他者とのコミュニケーションが著しく困難な生徒らが少しずつ心を開き、自己理解と他者理解のきっかけを持つことができたことは大きな成果と考えられる。</p>					
<p>《まとめ》          本研究は、今回が初年度に当たる。まず、6中学校と2小学校の教員の協働によって、本研究がすすめられたことは大きな成果のひとつとして考えられる。          次に、さまざまな思考活用ツールを援用して、これからの生徒に必要な「新しい学習観」の育成に本研究が取り組んだことも大きな成果である。          また、教員経験の浅い教員を先進校や学術的学会に派遣し、彼らが実践知だけでなく理論知を身近に触れることによって、その知見を広げることができたことも成果である。          最後に、これからも生徒一人ひとりが自己理解と他者理解を通して、言語活動の充実を図り、「生きる力」の醸成につなげていきたい。</p>					
<p>《課題》          本研究は、今回が初年度にあたる。3つの思考活用ツールを援用し、生徒一人ひとりの言語活動の充実を図ったが、本研究の言語活動の充実が学力向上に明確につながったという検証が次年度への課題と考えらる。          また、本研究の教育実践をより多くの教育現場に普及するとともに、協働できる教員の輪を広げていくことも課題として考えらる。          最後に、今年度の研究を省察し、次年度ではより多くの教育実践を展開するとともに、様々な業種ともコラボレーションを図り、教員と生徒の「対話」を基に本研究をすすめたい。</p>					
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和元年 11 月 7 日	参加者数	約 10 名
		場所	大阪市立喜連中学校・体育館		
備考					